

## 2004 年紀伊半島沖地震津波による住民避難行動について — 和歌山南部におけるヒアリング調査 —

原田賢治\*・河野哲彦\*・岡本 学\*・城下英行\*・河田恵昭\*

### 1.1. はじめに

2004 年 9 月 5 日 23 時 57 分に、東海道沖を震源とする M7.4 の地震が発生した。この本震に先立ち同日 19 時 07 分には、紀伊半島沖を震源とする M6.9 の地震（前震）が発生している。これらの地震による和歌山県下における計測震度は新宮市の震度 5 弱を最大として、沿岸 21 市町の全てが震度 3 以上を記録しており、串本町、すさみ町、日置川町でも震度 3 から 4 が記録されている（表 1）。ちなみに、1944 年に発生した東南海地震 M7.9 および 1946 年に発生した昭和南海地震 M8.0 による和歌山県下の震度（表 2）は震度 4, 5 であり、住民の中には昭和南海地震を経験した住民もいる。

また、今回の 2 つの地震により、太平洋岸の地域に対して気象庁より津波注意報・警報が発令されている（表 3）。津波警報を受けた沿岸自治体では、避難勧告・指示等の避難に関する情報を出すことで、沿岸住民へ津波からの避難を促すよう消防庁から求められているが、この地震津波に対して、消防庁（2004）が行った調査結果<sup>1)</sup>では、津波警報が発令された 42 市町村のうち、12 市町村で「避難勧告・指示」を、17 市町村で「避難呼びかけ」を、13 市町村では「対応なし」であった事が分かっている。行政からの避難に関する情報提供については、避難勧告・指示を出す基準作りが進んでおり、今後は迅速に情報が出されるようになって行くであろう。

ここでは、今回の 2 つの地震津波発生直後に和歌山県串本町、すさみ町、日置川町で沿岸住民に対して行った、ヒアリング調査の

結果について報告をする。ヒアリングを通して得られた、地震直後の住民行動についてのデータおよびその特徴を示し、住民避難行動の実態についての情報の整理を行う。これらにより、津波についての過去の経験と避難行動との関係や避難に関する情報と実際の行動の関係等について、実例とその特徴について述べる。なお、本ヒアリング調査は限られた時間の中で行っており、その地域の全体的な特徴をとらえるには不十分なデータ数であるが、地域住民の避難行動と津波防災情報に関する知見を得るため、個別の事例についての情報について検討を行うものである。

表 1 ヒアリング対象地域における計測震度

	前震(19:07)	本震(23:57)
日置川町日置	3	4
すさみ町周参見	3	3
串本町潮岬	4	4

表 2 昭和東南海地震、昭和南海地震による和歌山県下の震度<sup>2)</sup>

	東南海地震 (1942)	南海地震 (1946)
和歌山市男野芝	4	5
串本町潮岬	4	5

表 3 津波情報【津波注意報・津波警報】<sup>1)</sup>

19:07	前震発生	
19:14	津波注意報	三重県南部、和歌山県
20:15	津波注意報	伊豆・小笠原諸島、静岡県、愛知県外海、徳島県、高知県
21:15	津波予報解除	三重県南部、和歌山県、伊豆・小笠原諸島、静岡県、愛知県外海、徳島県、高知県
23:57	本震発生	
00:01	津波警報	和歌山県
	津波注意報	徳島県、高知県
00:03	津波警報	三重県南部、愛知県外海
	津波注意報	千葉県九十九里・外房、伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県、伊勢・三河湾
02:40	津波予報解除	愛知県外海、三重県南部、和歌山県、千葉県九十九里・外房、伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県、伊勢・三河湾、徳島県、高知県

\*京都大学防災研究所巨大災害研究センター

## 2. ヒアリング調査の概要

ヒアリング調査は、地震発生2日後の2004年9月7日の日中に行った。調査方法は、地域住民の地震直後の行動について、沿岸集落ごとの戸別訪問により行った。地震発生から時間が経つと、地震直後の行動に対する記憶が薄れると考えられるので、地震から時間をあけずに調査をしている。調査対象地域は和歌山県南部沿岸の串本町、すさみ町、日置川町(図1, 2参照)の沿岸に位置する9集落であり、合計61件のヒアリングによる情報収集を行った。戸別訪問による、ヒアリング調査の実施を、平日の日中に行っているため、ヒアリング対象者は日中に在宅していた老人や主婦が主な対象者となっているという特徴があるので注意が必要である。

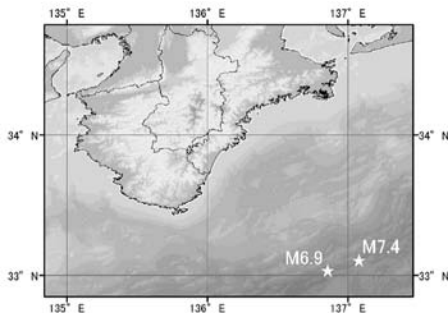


図1 地震の震源位置



図2 ヒアリング調査対象地域

## 3. ヒアリング調査結果の整理

ヒアリング調査により得られた結果より、特徴的な内容について述べる。なお、ヒアリング調査で得られた個別の情報については、聞き取り内容を最後に整理して付録として掲載する。

### 3.1 昭和南海地震の経験

ヒアリング対象とした和歌山南部は、昭和南海地震による津波の被害を受けている地域であり、次の東南海・南海地震の危険性は住民に認識されている地域である。

昭和南海地震を体験していると思われる60代以降の住民の中には、「昭和南海地震の時より揺れが小さいから逃げなかった」という住民が見られる(15), (18), (26)。これらの住民は、昭和南海地震では「大きな揺れを体感した後に大きな津波の被害」を経験しているため、今回の地震では「小さな揺れー津波の危険性は低い」というように、過去に経験した地震の揺れの大きさをもとに、地震の規模を推測しているものと考えられる。

しかしながら、ある地点での地震による揺れの大きさは、地震の規模だけでなく、震源からの距離によっても変化する。そのため、過去に経験した地震の揺れとの比較のみに基づいて地震の規模を推測すると、震源からの距離を無視することになり、遠くで発生した大地震に対して過小な地震の規模を推測することになる。一方で、津波は伝播距離によるエネルギー減衰が小さいので、遠くで大地震が発生し沿岸での地震による揺れが小さくても、大きな津波が沿岸を襲う場合が考えられる。従って、地震の揺れのみから、過小な地震の規模を推測すると、津波に対して非常に危険な判断をすることになってしまう。

このような地震・津波の特性に関する知識が十分に理解されていない場合には、たとえ昭和南海地震の経験がある人でも、過去の経験を基準とした判断による危険な行動をとることがあると言える。このような危険性に対して、次の東南海・南海地震の時に、昭和南海地震の経験・記憶が仇にならぬよう、「地震による揺れが小さくても、大きな津波が来るかもしれない」という認識を持ってもらうための情報提供や防災教育による対応が必要であると考えられる。

### 3.2 防災情報待ち

地震直後の情報収集についての行動は、

2003年の三陸南地震の時<sup>3)</sup>と同じで、地震による揺れがおさまった後、まずテレビ(NHK)で情報を収集しようとする人が多く見られた(10),(21),(27),(30),(32),(33),(40),(41),(43),(44),(52),(54),(61)。また、避難しない理由として「防災無線で避難勧告が無かったから」や「テレビで津波が1mとっていたから」という回答も多く見られ、テレビ・防災無線からの情報が来るのを待ってから、避難する／しないを判断している状況である。しかしながら、この様な判断では、テレビ・防災無線からの情報が津波の来襲よりも遅かったり、情報が届かなかったりした場合には、情報待ちにより逃げ遅れることも考えられる。自分の身の安全は自ら守るという考えで、大きな揺れや津波の危険性の情報を得たら、外部からの情報は避難のためのきっかけとしてとらえ、すぐに避難行動を取る判断をする事が重要であろう。

また、多くの回答が得られたテレビによる情報収集は、テレビというメディアの持つ広域性／迅速性と言った特性上、現状では地域ごとの細かな情報は、地震直後には十分には得られない。地震発生直後に放送されるテレビからの情報は、地震の発生場所や規模を表すマグニチュードや津波高や到達時間と言った災害因子の情報を、広域を対象として気象庁発表の情報を放送している。片田ら<sup>4)</sup>の調査によると、地震発生直後に行う情報収集活動で、最もほしいと思う情報は地震・津波に関する情報である。しかし、個人で情報収集する際に、ほしいと思う地震・津波に関する情報は、今いる場所の地震の震度や津波の高さ、来襲時間になると考えられるが、詳細な現地の情報は現地取材を行わなければ入手することは出来ない。発災直後の時期においては、災害の全容をとらえるための取材が行われている段階であり、テレビ放送されている情報からは詳細な地域の危険性に対する情報は得られないと考えるべきであろう。これらのことを理解して、情報収集し避難への判断をするべきであろう。

また、行政からの防災無線等による、避難

勧告・指示の情報については、気象庁から津波警報が出されているにもかかわらず、避難勧告・避難指示の情報が行政から出されないケースが見られる。ヒアリング対象地区の串本町、日置川町、すさみ町では、今回の津波では避難勧告は出さなかったが、それぞれ町内に防災行政放送を流しており、津波に警戒するよう指示をしている。ヒアリング結果からも、防災無線で津波に注意するよう放送されていた事は認識されている様であるが、「避難勧告ではない」ため避難はせずに、テレビで情報収集や海辺や川へ津波の様子を見に行く行動を取っている例が見られる。

### 3.3 海を見に行く行動

「テレビで1mの津波とっていたので、大丈夫と思い、海に津波を見に行った」や「揺れが小さかったので海を見に行った」のように、地震の揺れがおさまった後、海や港や川へ津波の様子を見に行ったという行動を取った人が漁師以外でも見られた。

テレビからの津波に関する情報は、津波警報・注意報が出されている区間を示す地図を写し、予想津波高と津波到達時刻を読み上げられる。その際には、「場所によっては0mを越える場合がある」という情報も放送されている。しかし、ヒアリング調査では、テレビから住民が聞き取っている情報は、予測津波高と予測到達時刻の数値ばかりを気にしており、しかもその数値に疑いを持たず真値として信じてしまっている様に思われる。本来ならば、これらの数値は、津波の危険性を表す数値であり、この数値が小さいからと言って安全であるのとらえることは出来ないものであろう。「場合によっては、0mを越える場合がある」の様な情報は、非常に重要であるにもかかわらず、住民にはあまり受け取られていないと言えよう。このような重要な情報を、情報の受け手が受け取れるようにするためには、緊急時に発せられる情報について事前の理解が必要であるので、平時の防災に関する広報活動や啓蒙活動が重要である。

#### 4. 終わりに

2004 年紀伊半島沖地震津波のヒアリング調査を通して、沿岸住民の避難行動と過去の経験や防災情報との関係について、いくつかの事例の特徴を述べた。今回のヒアリングから、住民の避難行動についての課題として次の様な点を上げることができた。

- ・過去の経験に基づいた危険な判断
- ・津波に対する不正確な知識
- ・テレビからの情報の不正確な理解
- ・外部からの情報待ちによる判断の遅れ

これらの課題に対しては、本文中で述べたように、事前の知識の習得および正しい情報の理解と判断により、改善されるものと思われる。

#### 参考文献

- 1) 消防庁 (2005) : 9 月 5 日に紀伊半島南東沖で発生した地震に伴う津波に対する地方公共団体の対応状況について, 消防災第 243 号, <http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi1611/pdf/161129sai243.pdf>
- 2) 気象庁 (2004) : 震度データベース, [http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/shindo\\_db/shindo\\_index.html](http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/shindo_db/shindo_index.html)
- 3) 牛山素行, 今村文彦 (2004) : 2003 年 5 月 26 日「三陸南地震」時の住民と防災情報 (基礎資料), 津波工学報告, 第 21 号, pp.57-82。
- 4) 片田敏孝ら (2003) : 平成 15 年 5 月 26 日三陸南地震における気仙沼市民の避難に関する調査報告 [速報版], [http://www.ce.gunma-u.ac.jp/regpln/katada/kataweb/sanriku/kese\\_n\\_report.pdf](http://www.ce.gunma-u.ac.jp/regpln/katada/kataweb/sanriku/kese_n_report.pdf)

### 付録. ヒアリング調査内容

#### 1. 串本町におけるヒアリング内容

##### ●西牟婁郡串本町住崎

##### (1) 40 代女性, 教員

19 時 07 分の 1 回目の地震の揺れを感じたときは、公民館での音楽会の最中だった。2 回目の防災無線放送を聞いた後、揺れの大きさを心配して串本地区にある自宅へ戻った。

##### (2) 70 代女性

数年前から娘夫婦の家の離れに居住しており、それまでは和歌山市内に住んでいた。昭和南海地震を経験したお婿さんから、「津波の心配はない」と聞いたので避難しなかった。

##### (3) 30 代女性

手に障害を持つため、地震・津波への安全を考えてこの地 (住崎地区) に新築して引っ越してきた。以前は串本地区に住んでいた。

##### (4) 60 代夫婦

現在住んでいるところが、高台なので、津波は大丈夫だろうと判断して避難しなかった。転勤の多い仕事を退職した後、串本町住崎地区に土地と家を購入して住んでいる。近所の人たちとの会話でも津波が話題に上ることはほとんどない。

##### (5) 20 代女性

現在住んでいるところが、高台なので津波の心配はないと考えて避難しなかった。

##### (6) 20 代男性, 教員

1 回目の地震は職場の学校で、2 回目の地震は串本地区の自宅にいた時に感じた。職業が教員であるため、どちらの地震の後も学校への避難者がいた場合の対応を考えて、職場である学校で待機していた。実際には、学校への避難者は無かった。

## ●西牟婁郡串本町潮岬（潮岬灯台）

## (7) 60代男性，2人家族

19時07分の地震発生時は，自宅で就寝中であつたが，発生後も自宅で就寝のままであつた。23時57分の地震発生時も自宅で就寝中に地震が発生した。発生後も自宅で就寝。今回発生した地二回の地震については，二回とも南海地震ではなく，普通の地震だと感じた。

## (8) 30代女性，6人家族

19時07分の地震発生時は，自宅で食事中であつた。地震発生後は，余震や近所の様子を伺っていたが，避難はしなかつた。23時57分の地震発生時は，自宅で就寝中であつた。地震発生後は，様子伺っていたが避難はしなかつた。

## (9) 60～70代男性，1人家族

19時07分の地震発生時は自宅で食事中であつた。23時57分の地震発生時は，一杯呑んだ後で就寝中であつた。熟睡していたため，地震の発生に気がつかなかつた。

## (10) 30代女性，3人家族

19時07分の地震発生時は，食後に自宅でテレビを視聴中であつた。地震発生直後には，食後であつたので，火の元の確認を行った。23時57分の地震発生時は，自宅で就寝中であつたため，子どもを起こして，2階から1階の部屋に移動し，テレビで情報収集をしていた。家具の転倒等の被害は無かつた。これまでに経験した中では，最大規模の地震であつたが，あわてることはなかつた。高台に住んでいるので，津波の心配はしなかつた。

## (11) 40～50代女性，2人家族

19時07分の地震発生時は，居間でくつろいでいた。避難はしなかつた。23時57分の地震発生時は，就寝中であつた。避難はしなかつた。今回発生した地震については，ひょっとしたら南海地震かと感じたが避難はしなかつた。

## (12) 30～40代女性，4人家族

19時07分の地震発生時は，串本町串本の職場で勤務中であつた。地震の揺れを感じた後，津波を警戒し，避難を検討したが，実際には避難はしなかつた。23時57分の地震発生時は，自宅で入浴中であつた。避難はしなかつた。今回発生した地震については，南海地震が発生したとは思わなかつた。

## (13) 40～50代女性，4人家族

19時07分の地震発生時には，海岸にいる夫を自動車を迎えに行くために，串本町内を自動車で行中であつた。普段と車の様子が違うと感じたが，それが地震によるものだとは気が付かなかつた。23時57分の地震発生時は，就寝中であつたが，避難せず，そのまま就寝した。発生した地震については，南海地震とは思わなかつた。

## (14) 70代男性，家族数不明

19時07分の地震発生時は，何をしていたか覚えていないが，発生後は特別何もしなかつた。23時57分の地震発生時にも，何をしていたか覚えていないが，発生後は何もしなかつた。今回の地震では，避難はしなかつた。

## (15) 70代女性，老人

一人暮らしをしている。昔，昭和南海地震当時は串本地区に住んでいた。今回の地震は，地震としては大きい，昭和南海地震と比較して全然大きくないと感じた。地震後には避難せず，自宅にいた。

## (16) 女性，小学生

今回の地震は，たくさん揺れたが，避難はしなかつた。核家族で祖父母はいない。

## ●西牟婁郡串本町串本

## (17) 70代男性

地震による揺れがおさまった後，小学校へ避難をした。小学校からは高台へ登る傾斜の緩やかな道があることを知っている。すぐに登れる急な避難路もあるが，老人にはこの急

な避難路で避難することは無理であると感じている。

#### (18) 80 代女性, 70 代男性

昭和南海地震を経験している。今回の地震による程度の地震の揺れでは、津波の心配はないと判断して避難しなかった。今回の地震と比べ遥かに地震の揺れが大きかった昭和南海地震でも、この辺りでは津波による浸水が無かった。

#### (19) 町職員

1 回目, 2 回目の地震とも、串本小学校には避難者が来ていた。2 回目の地震の後には、最大で 50 人程度の住民が串本小学校に避難してきていた。串本町全体での避難者は 128 人であった。町職員はまず町役場に向かう決まりになっているため、実際に避難所に到着したのは約 20 分後であった。串本町では地区ごとに自治会をつくり、それぞれに避難計画を立てている（この取り組みで総理大臣賞受賞）ので、地区によって避難行動に差があるかもしれない。

#### (20) 60 ～ 70 代男性, 4 人家族

19 時 07 分の地震発生時は、自宅で過ごしていた。地震によるゆれが長かったので、自宅の外に出た。その後、所有する漁船への津波による影響が心配になったため、浜の様子を見に行つた。23 時 57 分の地震発生時は、自動車を運転していた。自動車に乗っていたため、自身の感覚では地震の揺れに気がつかず、防災無線からの放送によって、地震の発生と津波の到達を知った。実際に津波が到達したのは、町の防災無線によって津波の来襲予告があった前後であった。発生した地震については、昭和南海地震を経験しており、昭和南海地震の時の揺れと比べて、地震による町内の被害がなかったため、今回の地震は、そんなに大きな地震ではないと判断した。昭和南海地震の際には、石垣が崩れている箇所が何箇所も見られた。土地柄、日ごろから、津波対する警戒をしている。自宅から最寄り

の避難場所まで時間を計測したところ徒歩で 4 分かかることを知っており、高齢になる義母の避難のことを考えて、今後車椅子を購入するか検討しているところである。

#### (21) 50 ～ 60 代の夫婦, 2 人家族

19 時 07 分の地震発生時は、自宅の居間で夫婦一緒にテレビを視聴していた。地震発生後は夫婦で、建物の中から自宅建物の外の庭に出た。その後、建物の中に戻り、テレビで津波の情報を得て、津波に対して大丈夫と判断した。23 時 57 分の地震発生時には、19 時 07 分の地震の影響で、夫婦ともに眠ることができず、居間でテレビを視聴していた。夫は庭に出たが、妻はそのまま居間にいた。今回発生した地震については、南海地震の前触れの一つではないかと感じた。

#### (22) 60 ～ 70 代男性, 1 人家族

19 時 07 分の地震発生時は、買い物に行くために、串本町内を自動車で行中であつた。運転中であつたため、初め地震発生とは気がつかずに、タイヤが脱輪したことによる自動車の異常ではないかと感じた。その後、買い物先の A-COOP において、地震が発生したことを知しつた。23 時 57 分の地震発生時は、就寝中に地震発生した。17 歳の時に昭和南海地震を経験している。行ってはだめだとはわかっていたが、浜に津波の様子を見に行つた。浜には、様子を見に来ている人が、自分以外にもたくさんいた。

#### (23) 50 ～ 60 代女性, 4 人家族

19 時 07 分の地震発生時には、自宅にいた。地震の後、夫婦だけで岬に避難した。23 時 57 分の地震発生時は、自宅にいた。地震の後、家族全員で、平松の役場の集会所に避難した。自宅の建っている地盤の高さが海拔 7 メートルぐらいであることを知っている。また、昭和南海地震の際に、自宅付近で子どもが津波にさらわれ、犠牲になったという話を聞いていたため、地震の後、避難をした。6 日の午前 4 時ごろまで、避難所にいたが、仕事に出

るために帰宅した。

(24) 男性 3 名, 小学校 2 ~ 3 年生

地震の後, 家族と逃げようかどうしようかという話になったが, 逃げなかった。理由は津波の高さが 70cm だったから。海からの距離が 80m ぐらいの家に住んでいる。

(25) 男性 3 名, 女性 2 名, 老人

昭和南海地震を体験していたから避難した。自分の子供の家族も近所に住んでいるが, 彼らは避難しなかった。避難したのは昭和南海地震の体験者が多かった。地震の揺れで, あわてて逃げるほどでない規模の地震だとすぐに判断した。

●西牟婁郡串本町有田

(26) 60 代女性

地震の揺れが収まった後, 海辺へ津波を見に行った。近所の人たちもみな海辺へ出てきて津波を見物していた。昭和南海地震を経験している。昭和南海地震当時の揺れの大きさと津波による被害がなかったという経験から, 今回程度の地震の揺れでは津波による被害はないと判断した。

(27) 40 代・60 代女性, 親子

19 時 07 分の地震発生時は, 食事の後片付けをしている最中であつた。自宅が高台にあるため, 津波の心配はないと判断し, 避難しないで自宅でテレビをみて情報収集を行っていた。23 時 57 分の地震発生時は, 就寝中であつた。就寝中であつたため, そのまま何もしなかった。

(28) 男性, 老人, 公民館館長

今回の地震による揺れは, ここしばかりではかなり大きい揺れであるとは思つたが, 南海地震ではないとおもつた。公民館には, 避難しに来た人はいなかった。地震の後, 地震について話をしに公民館まで来た人はいた。公民館ではなく, 個人の家周辺の人たちが避難したということはある。地震発生直後,

住民はのんびりとしていた。昭和南海地震のような津波を体験していないと, 津波に対してピンと来ない。串本からの行政無線は津波 1 m くらいと言っていた。地震発生後, 川に人が集まって, 懐中電灯で照らしながら津波が川をさかのぼって行くのを見ていた。2 回目の地震の後, 川の水がなくなった。船は台風対策でしっかりとつないであつたため大丈夫だった。

(29) 40 代女性

今回の地震の後には, 避難しなかった。道路脇に書かれている標高とテレビで発表された津波高を比べて判断した。非常持ち出し品の準備はしている。昭和南海地震の話も聞いており, 近くで 1 人死亡したと聞いている。

(30) 60 代男性

地震の揺れの後, 避難しようか迷っているうちに, テレビで津波高が発表された。昭和南海地震を経験している。昭和南海地震当時は二色地区に住んでいた。昭和南海地震の津波では, 浜辺に植えられた松より高い位置で船がぐるぐると回っていたのを見た。

●西牟婁郡串本町田並

(31) 70 ~ 80 代女性

19 時 07 分の地震発生時には, 自宅で寝転がっていた。地震のあと, 避難することとはなかった。多くの町民が海のほうへ津波の様子を見に行くのを見ていた。23 時 57 分の地震発生時には, 就寝中であつたので, そのまま寝ていた。昭和南海地震を経験している。今回発生した地震は, 揺れている最中にも動くことが可能であつたので, 南海地震とは思わなかった。昭和南海地震の際は, はって動くことも困難であつた。昭和南海地震を経験しており, 「井戸の水がへると津波が来る」ということを知っている。昭和南海地震の際は, 戦後引き揚げてきたばかりで, 土地勘がなく, 地元漁師の指示で高台の寺に避難したと記憶している。

## (32) 70 ～ 80 代女性

19 時 07 分の地震発生時には、自宅で座っていた。家からの出口の確保を行った。津波の波高が低いことをテレビ等で知り、津波の心配はないと判断したので避難はしなかった。23 時 57 分の地震発生時には、就寝中であつた。家からの出口の確保を行った。その後はそのまま就寝し避難はしなかった。

## (33) 50 ～ 60 代女性

19 時 07 分の地震発生時には、自宅で座っていた。出口の確保を行った。津波の波高が低いことをテレビ等で知り、津波の心配はないので避難はしなかった。23 時 57 分の地震発生時には就寝中であつた。出口の確保を行った。その後はそのまま就寝した。

## (34) 40 ～ 50 代女性

19 時 07 分の地震発生時には、経営する店にいた。ちょうど店じまい作業の途中で、揺れている最中に、電気器具のコードをコンセントから抜いた。その後、夫がやってきて、ガスの元栓を締めた。23 時 57 分の地震発生時には、就寝中であつた。地震の後も、そのまま就寝していた。

## (35) 女性、老人

今回の地震は、かなり揺れた。地震の後、津波のことを考えて自宅前の川の様子を見に行つたが、避難はしなかった。近所の人で、車で避難していった人がいた。大阪出身であるので、昭和南海地震は経験していない。川の水が引いたと言っているのを聞いた。

## (36) 男性、30 代

今回の地震は「大きかったなあ」と感じるぐらいの大きさだった。海の水が流れ込んできたと言っていた人がいた。

## (37) 男性、老人

接近していた台風の影響で、波がもともと 60cm くらい高くなっていた。地震の揺れは大きく、東西方向に揺れた。和歌山が一番大

きい揺れの地震なら、他のところはもっとひどいのでは無いかと思つた。津波は来るかも知れないと思つた。素人には津波による波が台風による波なのかの区別は付きにくい。今回の津波は、台風と津波のセットだったので、50 cm の津波が来たというが、台風のおかげでよく分からなかった。昭和南海地震は、山の向こうに住んでいたので揺れのみだった。

## 2. すさみ町におけるヒアリング内容

## ●西牟婁郡すさみ町江住

## (38) 女性、50 代

地震がおさまった後には、町の人は家の外に出て来ており、津波を見に人が出て来ていた。川沿いに住む人たちは寝られなかったと聞いている。

## (39) 女性、50 代

地震の後に、近くの川の橋に津波を見に行つたが、数十 cm の津波では分からなかった。1 度目もそうだが、2 度目の地震の後も、避難する気にはなれなかった。

## (40) 40 代男性

今回の地震の後、避難はしなかった。テレビの情報で判断した。役場からの避難勧告もなかった。もしあれば避難していたと思う。消防が車で注意を呼びかけていたが、海辺や川辺の見物人を退避させるようなことはなかった。

## (41) 70 代女性

今回の地震後は、避難しなかった。非常持ち出し用のリュックサックを持って勝手口まで行つたが、避難所まで行くか迷って行かなかった。そのうちテレビで津波高が発表されたいしたこなかったのので、一人で海辺に津波を見に行つた。隣の独居老人にも、大丈夫らしいと伝えた。後で娘から電話があり、何も持たずにすぐ逃げろと怒られた。昭和南海地震のときは、直接津波を目撃した。当時はコ



ンクリート護岸などなく、遠くまで砂浜が広がっている海岸だった。昭和南海地震の時は、海底から泡が沸々と沸いてくるようだった。

(42) 60代男性, 公民館長

今回の地震の後は、避難しなかった。適切な避難場所が用意されていない。今後、避難場所を整備してほしい。指定避難所はあるし避難訓練も行ったが、形だけのものと感じている。昭和南海地震を経験しており、当時はちゃんと避難した。昭和南海地震のときに、避難した場所も今では草木が茂っていて、とても登って避難できる状態ではない。

(43) 60～70代女性, 2人家族

19時07分の地震発生時は、食後でテレビを視聴していた。地震のあと、自宅の外に出て、防災無線を聞いたりテレビを見たりして、地震の状況に注目していた。23時57分の地震発生時は、就寝中であつた。地震の揺れで起きて、テレビで情報収集をしていた。その後、約30分後に再び就寝した。発生した地震については、「ついに来るもの（南海地震）が来たか」と感じた。

(44) 60～70代女性, 2人家族

19時07分の地震発生時は、自宅で夕食中であつた。地震発生後は、そのまま自宅にいた。近所に住む息子家族は地震の際、ここ（私の家）に集まることになっており、今回も集まってきた。自宅の裏に山を所有しており、津波来襲の際は、そこに避難する事になっている。23時57分の地震発生時には、就寝中であつた。地震の後、起きて、午前2時30分ごろまでテレビで情報収集をしていた。発生した地震については、今回の地震に限らず、地震が発生すれば、いつも南海地震ではないかと感じている。

●西牟婁郡すさみ町見老津

(45) 30代女性と小学生男児

1回目の地震発生時は、法事の最中であつた。地区の大人が全員集まっていた。地震の

後、法事を続けるかしばらく迷ったがそのまま続行した。地震の後、マンホールから何か吹き出してきていた。自宅は地区で一番高い位置にあるため、避難する必要はないと判断した。漁船は台風の被害を避けるため、8月の終わりからずっと周参見港へ避難していた。

(46) 30代女性

1回目の地震発生時は法事に参列中であつたため、避難しなかった。2回目の地震発生時も避難しなかった。避難勧告がなかったため避難しなかった。昭和南海地震津波で、この地区のどこまで水がきたかは聞いている。今の家が床下浸水する程度だったらしい。

(47) 60代女性

19時07分の地震発生時は、通夜に参列中であつた。地震で揺れている最中に、他の参列者の男性が「外に出るな」と行ったため、外に出なかった。その後は通夜が続行された。23時57分の地震発生時は、就寝中であつた。地震の揺れがおさまった後、家の外に出て辺りの様子を伺った。発生した地震については、南海地震が発生したのかおもった。

(48) 60～70代男性

19時07分の地震発生時は、通夜に参列中であつた。他の参列者の男性が「外に出るな」といったため、外に出なかった。その後は通夜が続けられた。23時57分の地震発生は、就寝中であつた。地震の後、起きて、テレビをみて情報収集を行った。発生した地震については、南海地震の前触れだと思った。津波に注意を呼びかける防災無線の放送が津波到達後にあり、意味がないと感じた。

●西牟婁郡すさみ町周参見

(49) 70代男性

地震発生後、皆避難しなかった。避難場所は決まっているが、実情に合っていない。防災無線放送に何か問題があつたらしい。携帯電話がつかならなかったとも聞いている。昭和南海地震は経験しているが、コンクリート

護岸や堤防、新しい橋などができているので、次の南海地震の時はどうなるか予想がつかない。新しい橋を架けるとき、津波のことでもめたことがあった。

#### (50) 小学生男児

1 回目の地震発生時は、自宅にいなかった。2 回目の地震発生時は就寝中であった。地震のあと、寝たまま親に連れられてどこかに行った。寝ていてよく分からないが、おそらく避難した。小学校で津波の話は聞いている。地震と津波についてのプリントも配られた。

#### (51) 30 代女性

今回の地震では、避難しなかった。防災無線が場所によっては聞き取りにくかったらしいと聞いている。我が家ではちゃんと防災無線を聞くことが出来た。避難場所は知っている。昨年、一度だけ避難訓練があったが、仕事のため参加しなかった。

#### (52) 60 ～ 70 代男性

19 時 07 分の地震発生時は、自宅で食事中であった。津波を心配して、テレビで情報収集を行った。23 時 57 分の地震発生時は、寝ようかと思っていたときであった。津波を心配して、テレビで情報収集を行った。その後、近所を見回したところ、親が働きに出ているため中学生だけで過ごしていた兄妹がいたため、自宅につれてきた。今回の地震は、南海地震の前触れかと思ったが、南海地震の本震ではないと感じた。昭和南海地震を体験しており、家のきしむ音が当時と違った。

#### (53) 70 ～ 80 代夫婦

19 時 07 分の地震発生時は、自宅にいたが避難しなかった。23 時 57 分の地震発生時は、就寝中であった。

#### (54) 50 代女性

19 時 07 分の地震発生時は、部屋でテレビを視聴していた。そのままテレビで津波情報を収集した。その結果、テレビの津波高が低

いので大丈夫ということが分かり、避難しなかった。23 時 57 分の地震発生時は、就寝中であった。地震の揺れがおさまった後、テレビで津波情報を収集した。津波は大丈夫ということが分かり、避難はしなかった。今回の地震は、南海地震とは思わなかった。ただし、この規模の地震は初めての経験であった。これまでに、昭和南海地震について話に聞いていたので、今回の地震は南海地震でないと判断した。

#### (55) 60 ～ 70 代女性

19 時 07 分の地震発生時は、座ってテレビを視聴していた。地震の揺れがおさまった後は、夫が不在で、外に出て良いかどうか分からず、自宅で待機していた。住んでいる地区は、昭和南海地震の際、避難せずとも被害が出なかったという話を聞いていたため、大丈夫であると考えて避難しなかった。23 時 57 分の地震発生時は就寝中であった。その後、いったん起きたが、再び就寝した。23 時 57 分の地震は、南海地震であると思った。

#### (56) 男性 6 名、漁師

今回の地震の震度 5 は大きかった。(すきみ町周参見での計測震度は前震・本震共に震度 3) 最近の中では大きいですが、逃げるほどでは無かった。昭和南海地震を体験しており、南海地震なら、立ってられない。当時は、石垣はみな壊れるほどであった。2 回目の地震の前は「ゴー」という音が地震で揺れる前にした。地震の後、海を見に行ったが、1 回目の地震による津波は、台風の波でわかりにくかった。2 回目の地震による津波では、上下 2 m ぐらいの差 (最低でも 1.5 m) があった。

#### (57) 男性, 50 代

1 回目の地震による揺れより、2 回目の地震による揺れの方が大きかったが、昭和南海地震に比べればたいした揺れでは無いと感じた。海に様子を見に来ることもなく、避難もしないで家にいた。海には津波を見に来る人がかなりおり、80cm ぐらいの津波が見られ

たと聞いている。

(58) 男性, 60代

今回の地震では、津波を見にも行かなければ避難もしなかった。この程度の地震の揺れでは、たいした事は無いと思った。

### 3. 日置川町におけるヒアリング内容

#### ●西牟婁郡日置川町日置

(59) 70代男性

昭和南海地震を経験しており、この地区は絶対安全と思っている。昭和南海地震のときはこの地区には3mの津波が来ている。今のようなコンクリート護岸はなかったが、この辺りは無被害だった。当時の被害は川沿いばかりで、船が川上まで流されていた。今回の地震の直後には、若い人たちに「逃げなくても大丈夫だ」と言い聞かせた。

(60) 50代女性

この地区は安全と思っている。被害はいつも川沿いばかりである。以前、上流のダムが決壊したときも、この地区では被害は無かつ

た。台風も頻繁に来襲するが、この地区では、被害はほとんど無く大丈夫である。

(61) 40～50代女性, 6人家族

19時07分の地震発生時は、自宅でテレビを視聴中であった。地震による揺れがおさまった後、テレビと町内放送から津波の情報をえた。最終的に避難勧告が発令されなかったため、避難はしなかった。23時57分の地震発生時は、就寝中であった。家族全員で起床し、避難を検討したが、結局、避難はしなかった。今回の地震は、南海地震か、その前震かと思った。このゆれが震度5弱かという感想を持った。地震の影響で、主要な交通機関であるJRが不通となり、非常に不便であった。

(62) 40～50代女性

19時07分の地震発生時は、家にいた。津波の心配もないと判断して、避難しなかった。23時57分の地震発生時は就寝中であった。津波の心配もないと判断し、避難しなかった。70～80代の親の感想としては、南海地震かと感じたようである。昭和南海地震より大きかったようにも思えた。しかし、「(昭和南海地震は)よく覚えていない」。